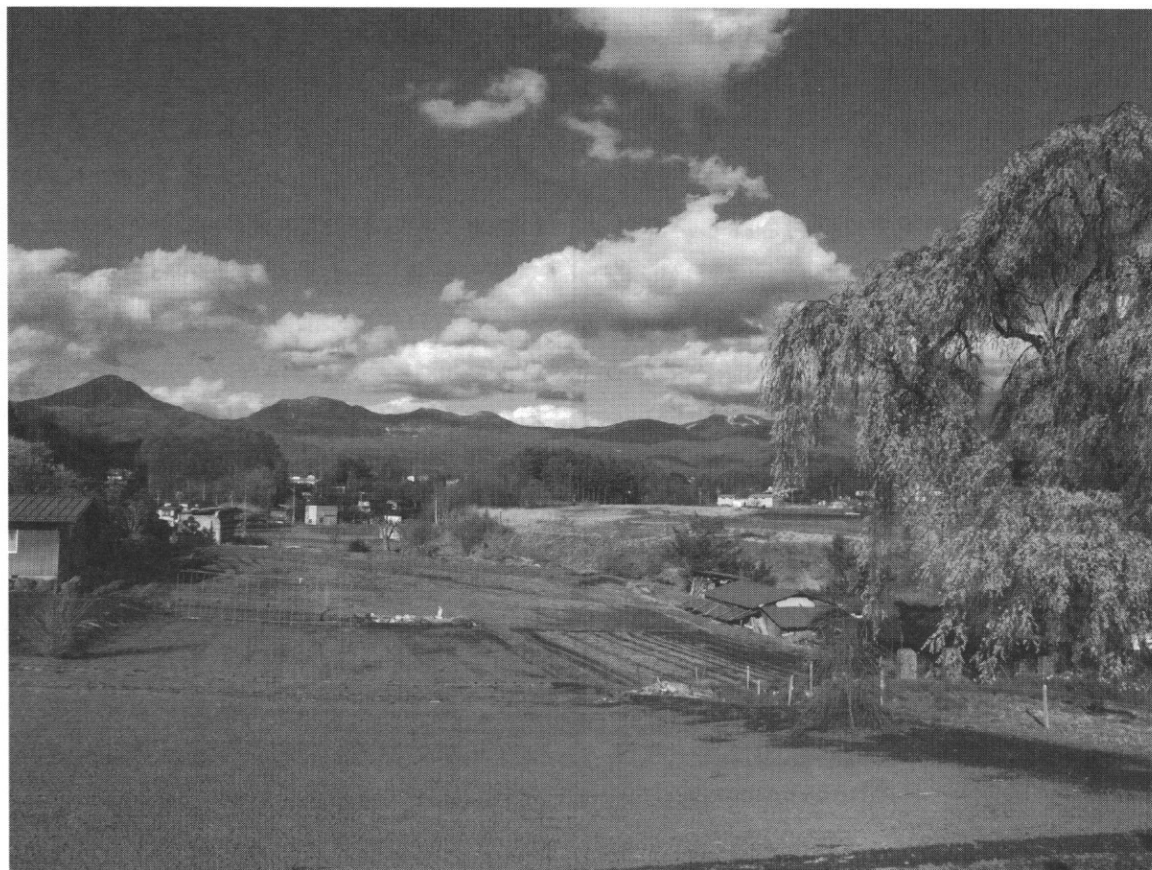


蓼科会会報

平成 23 年夏通信



(5月の枝垂桜と蓼科山)

平成 23 年夏のご挨拶

夏を迎えて

会長 脇田 宏



今年は3月に東北・関東で未曾有の大震災が起きました。東日本大地震の犠牲となった方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

この地震のマグニチュードは9.0という観測史上最大のもので、大津波を伴い、3万人に近い死者・行方不明者が出るという大災害となりました。津波によって、すべての電源を失った福島第一原子力発電所では、燃料棒が融け、発生した水素ガスの爆発により堅牢な原子炉建屋が破壊され、無惨な姿をさらけ出しています。大量の高放射性の物質が大気や海に流出し、住民の避難が必要となり、汚染された農作物、水産物などの摂取も制限されるという深刻な事態となっています。地震から3ヶ月を経過

する今日でもメルトダウンした原子炉を冷却する方策は不明確で、増え続ける多量の高放射性汚染水や環境汚染の拡大が、私たちの国民生活に計り知れない不安と影響を与えています。

これまで自然に恵まれた我が国は飲み水や農作物、海産物などの質の高さと安全性を世界に誇っていました。それが原発周辺では、深呼吸もはばかれる事態になっていて、児童の集団疎開まで検討されています。被災地の方には申し訳ないことですが、安心して過ごせる場として蓼科があります。この夏は皆様ご親類ご友人をお誘いになって蓼科でお過ごしになるのではないのでしょうか。ことに年少のお子様方には蓼科を知っていただくよい機会にもなると思います。3月11日には、都内でも多数の帰宅困難者が出ました。首都直下型の地震の心配も残り、万一のことを考えておられる方も多いかと思えます。

私事になりますが、蓼科に別荘をつくることにしたのは、日本中を歩いて蓼科の気候が健康に一番良いという結論を下した岳父西川義方(医師)の勧めもありましたが、戦災とその後の食糧難を経験した私は東京から離れた場所に避難所がほしいと切実に考えたからでもあります。

蓼科での暮らしをより豊かで楽しいものにするため、蓼科会と地元の方々との交流をより一層深めていきたいと思っております。これまで総会の前に区長さんをはじめ、消防や環境担当の役員、東洋観光様ほかの方々のご出席をいただき、別荘地域の治安やゴミ処理問題などについての有益な情報を受け、別荘側からの要望もお伝えする地元懇談会が開かれていました。今後さらに

交流を発展させて行きたいものです。

昨年の御柱祭りに参加して地元の方々とお話する機会がありました。脱サラをしてペンション経営をしておられる方や旅館のご主人もおられました。山が好きで春の山菜採り、夏の登山、秋の茸採り、冬のクロスカントリーなど蓼科の魅力を語って下さいました。こうした方々の知識や技術はプロ級だそうで、別荘の我々にとっても有難いことです。軽音楽やジャズなどの音楽会や食事を楽しむ会も開かれているようです。

蓼科会の今期の活動方針は「親睦」と「若返り」です。会員のみなさまが蓼科会に参加していて楽しく、よかったと感じられる会にしていきたいと思っております。「ホームページ」もご覧になっているのでしょうか。

夏には例年と同じように、総会、午餐会、音楽会、ゴルフやテニスの会、旅行会(東洋観光企画による)、お別れ会などが開かれます。また、今年はじめでの試みとして、プール平で開くバーベキュー大会も企画されています。楽しみにお待ち下さい。

会議等の報告

1. 新年会



今年の新年会は1月29日(土)日比谷公園内の Hibiya Palace で行いました。

参加者は22名。小笠原陽子さん、相澤絵里子さん、稲留正英さんの若手会員が出席し、さらに今年から会員になられた下坂ご夫妻

が参加されました。

Hibiya Palace は、板倉さんのご紹介。都心の日比谷公園で魚または肉のフルコース プラス ワインが 4,000 円とレストラン側が大勉強してくれました。

脇田会長より、シャンペンの差し入れがあり、最長老の矢野さんが乾杯の音頭、その後、脇田会長のご挨拶に始まり、新幹事の紹介等がありました。

当日は冬晴れの暖かい日であり、窓越しに日比谷公園を見ながら、楽しい歓談のひと時を過ごし、終了予定時間の 2 時になっても話がまだ尽きないようでした。(稲留 偉智記)

2. 水道審議会

平成 23 年 2 月 22 日(火)午後 3 時より茅野市市役所にて水道審議会が開催されました。昨年の関谷委員に代わって稲留が出席しました。

柳平千代一茅野市長の挨拶に始まり、メンバーの自己紹介がありました。会長は今井利弥さん、副会長は武井恵美子さん、それに地区代表の有識者 16 名及び茅野市役所建設部水道課の職員 6、7 名の出席でした。

茅野市が経営する水道事業は茅野市水道事業、蓼科地区水道事業、白樺湖地区水道事業の 3 箇所があり、これ以外に(茅野市営以外の)私営、住民組合営の水道事業が 18 箇所あります。茅野市、蓼科地区は、当年度利益が発生していますが、白樺湖地区は経常的に損失が発生しています。

水道審議会は、将来の水道事業をどう運営していくかのビジョンをつくり、茅野市に提案するための集まりです。水道を取り

巻く環境は、国の政策、少子・高齢化、人口減少、地震等の災害対策により大きな変化が現れています。このような変化を勘案しつつ、“安心”“安全”“持続”を念頭に茅野市の水道ビジョンを作っていきます。現在 3 箇所に分かれている事業体をひとつに統一させたいが、水道料金等に違いがあり、簡単には出来ないという問題もあります。平成 23 年 5 月に茅野市にビジョンを提案したく、その前にもう一度審議会を開催したいと言う会長の意向でした。(稲留 偉智記)

平成 23 年度行事

1. 幹事会開催通知

通常総会に先立ち、恒例の幹事会を開催します。役員の方、並びに会員の方奮ってご参加下さい。

日時：8 月 7 日(日) 10 時から

場所：プール平 銀のポスト

議題：総会の進め方、今年度行事打ち合わせ

2. 通常総会開催通知

平成 23 年度の通常総会を開催しますの
で、多数の会員のご出席をお願いします。

日時：8 月 8 日(月)

10 時 30 分 地元懇談会

11 時 00 分 通常総会

場所：親湯 レストラン(イス席)

議題：平成 22 年度事業報告及び会計報告

3. 午餐会

総会に引き続き午餐会を催します。

日時：8 月 8 日(月) 12 時～13 時 30 分

場所：親湯 レストラン(イス席)

会費：4,000円(ドリンク 1杯つき)

総会、午餐会とも昨年とは場所が替わっていますのでご注意ください。

プール平よりホテルの送迎バスが出ますので必要な方は稲留まで。

電話；0266 (67) 6676、080 (5415) 7000
なお、総会及び午餐会につき、同封の返信はがきで出欠を7月31日迄にお知らせ下さい。直前のキャンセル(8月5日以降)は、会費の負担をお願いすることになります。

親睦会

1. 音楽会

今年の音楽会は皆様おなじみの

- ・佐久間大和 (バイオリン)
- ・ウーハ(チェロ)
- ・田口真理子 (ピアノ)

によるトリオ演奏です。山岸宜公さん選曲の下記を奏でます。お楽しみ下さい。

ルーマニアンダンス バルトーク

華麗なるポロネーズ ショパン

偉大な芸術家の思い出に チャイコフスキー

ばら色の人生

私の心はバイオリン

日時： 8月8日(月)

14時開場、14時30分開演

場所： プール平 消防会館

入場料： 1,000円

消防会館は、全部椅子席です。

お問い合わせ：

狩野聡美 090 (6009) 1456

昨年と場所が変わっていますのでお間違えないようにお願いします。

2. 旅行会

今年の旅行会は、戸隠神社・鏡池散策コ

ースと蕎麦うち体験コースになります。昨年同様、東洋観光(株)の主催で、詳細は7月中旬にでる「蓼科高原からのたより」をご覧ください。

日時は、8月19日(金)、費用は一人5,500円だそうです。問い合わせ、申し込みは、直接東洋観光へお願いします。

またこれとは別に秋のバス旅行を10月14日(金)、高山方面で企画しています。費用は6,500円です。

申し込み先：東洋観光(株)平出(ひらいで)さん tel:0266 (67) 2100

3. テニス大会

テニス大会は今年で15回目を迎えます。毎年と同じ要領で下記の通り行いますので、会員の皆様はもとより、お知り合いにもお呼びかけ頂き、多数ご参加下さいますようお願いいたします。

日時： 8月6日(土) 10時～15時

集合時間： 9時30分

場所： 東洋観光 プール平テニスコート

試合方式： ダブルス(組合せは当日決定)

会費： 1人1,000円 (昼食代、ビール・パーティ代、ボール代込み)

申し込み期限： 7月31日(日)

連絡先： 矢野 喜雄

電話：0797 (74) 3583 (宝塚)

0266 (67) 6460 (蓼科)

4. ゴルフ会

昨年は蓼科会、四季の森との合同大会を東洋観光主催で開催しましたが、今年は東洋観光のゴルフが8月27日(土)になり、第8回ライオンズゴルフ大会は一昨年と同様単独で行います。

日時： 8月5日(金)
場所： 蓼科高原 カントリークラブ
時間： 8時30分スタート
集合時間・場所： 8時にキャデーマスター室付近

費用： ゴルフ プレイ代 15,000円 (キャデー、昼食、税込み)

参加費： 2,000円 (賞品、パーター代)

蓼科会で賞金代として小額の補助を検討しています。

お問い合わせ： 稲留 偉智 (ひでとも)
電話 03 (3314) 2650、0266 (67) 6676

Email: inatome-hi@jcom.home.ne.jp

申し込み期限： 7月31日(日)

夏の高原の楽しいゴルフを期待しています。老若男女にかかわらず、多数のご参加をお待ちしています。

なお東洋観光のゴルフは、8月27日(土)。プレイ代 14,000円、参加費 4,000円です。興味のある方は直接お申し込み下さい。

4. バーベキュー

昨年のお別れ会でのご要望に応じて、バーベキュー大会を開催します。会員誰でもが参加できる楽しい会にして行きたいと幹事一同準備を進めています。

板倉さんのお蕎麦もです。

日時： 8月7日(日) 17時～

場所： プール平 東洋観光事務所前

会費： お一人 2,000円、 小学6年生以下 1,000円。

水、ソフトドリンクは、用意しますが、アルコール類は各自ご用意下さい。

万葉堂、一久 (20時頃まで営業してます。)でも購入可能です。

準備の関係上、50名さま程度を考えていま

す。同封の葉書にて7月31日までに
出欠お知らせ下さい。雨天決行です。

お問い合わせ： 矢野 0266 (67) 6460,
稲留 080 (5415) 7000

5. お別れ会

夏の最後のお別れ会を行います。

日時： 8月18日(木) 14時から

場所： プール平 銀のポスト

費用： 実費 お茶とケーキで1,000円程度
特にテーマは決めずにご歓談下さい。

連絡先： 脇田 080 (3094) 2184

蓼科高原 昔ばなし

—第二次大戦前後の山荘生活—

山中 厚弘

3. 蓼科の別荘地 (前号より続く)

蓼科の別荘は昭和14年に200軒をこえ、戦前の最盛期には300近くとなっていたが、先に述べた道路交通事情よりその立地は限られていた。現在蓼科といえばビレッジ、三井の森、東急、鹿山など広大な範囲を思い浮かべる人が多いと思うが、大戦前後はプール平から徒歩で15分くらいの範囲、滝の湯川と大河原堰の間、滝の湯堰より上の範囲に散らばっていた温泉と別荘地を指していた。郵便物は長野県諏訪郡北山村蓼科高原で届いた。近所に「蓼科」と称するところは、ほかになかった。山名として蓼科山があり蓼科はその表口にあつたっていた。蓼科山は諏訪地区からの呼び名で、佐久地方では立科山と表示していたと思う。私の子供の頃の地図では蓼科(立科)山と標記していた。なお、滝の湯堰と大河原堰は、今から200年以上前に作られた農業用灌漑

の堰である。少し横道に入るが、これらの堰について説明したい。

蓼科山から八ヶ岳にかけての山系の西側には、北から音無川、滝の湯川、渋川、角名川、鳴岩川、柳川、立場川が流れ出て、立場川を除き茅野付近で一本になり最後は諏訪湖に注いでいる。これらの河川がいわゆる“山浦”地方をつくり農業地となっている。今から200年以上前、諏訪の高島藩は財政立て直しを図るため、田沢村(現在の茅野市宮川)の名主で土木技術に長じていた坂本養川(1736～1809)の献策を入れた。そして、天明5年(1785年)の滝の湯堰に始まって寛政12年(1800年)までに、ほぼ上記の川を水源とする15の堰を開削した。開田反歩は300町歩に及んだといわれる(諏訪の農業用水と坂本養川、上記刊行委員会ほか)。今、尖石考古館の前に坂本養川の銅像が建っている。

滝の湯堰は、滝の湯のすぐ下から取水しホテルハイジの裏を通り、小齊川などを集め、蓼科湖の横を経て、糸萱の上手で渋川を渡り18か村(地区)を潤している。大河原堰は、城の平上手で滝の湯川から取水し、ピラタス方面からの流れを取り入れながら、笹丸平を経て乙女滝として落下、渋川を渡り12か村(地区)に灌漑水を供給している。

話を元に戻す。山荘地域には最初の頃水道はなく、小齊川(三五十川)を利用していたという話を聞いたこともあるが、私が初めて蓼科に来た昭和14年には、別荘地にはすでに水道がひかれ、電気も来ていた。水道、電気の普及とともに山荘の数が増えていったと思われる。電話

を引いている別荘は、ほとんどなかったと思われる。急用の時は電報を利用した。

4. 蓼科の生活

蓼科の中心地は何といてもプール平であり、高原ホテル、三幸旅館、後に山紫閣のほか、郵便局、小川写真館(夏のみ)、日用品・土産もの販売の万葉堂、酒・調味料や土産品の一久のほか、夏のみ一番バスで茅野駅前の本店から魚、肉を運んでくる魚徳、夏の客目当ての楽焼などの店があった。万葉堂の愛想の良いご夫婦、一久の小柄で色が一寸黒い小母さん、頭が半ば禿げ上がった魚徳の小父さん、たまにおかみさんが来ていたが、皆故人になってしまった。

今のように車で買い物という時代ではない、別荘の住人は、大体一日一回プール平に買い物にくる。おおげさにいえば蓼科中の人が集まるので、さながら蓼科銀座の様相を呈していた。あるとき一人の年取った婦人を、母が「歌人であり恋愛ロマンスで有名な柳原白蓮さんよ」と教えてくれた。大正天皇の従姉妹にもあたり当時の有名人であろうが、子供の私にはただの小母さんに過ぎなかった。買い忘れたものがあると、子供たちがプール平まで走らせられた。

野菜は夏ともなれば朝早く湯川、芹が沢、糸萱、笹原など麓の部落から大きな籠を背負った小母さんたちが登ってきた。この小母さんに頼んでおけば鶏、卵なども持ってきてくれた。時たま諏訪のほうから、“鰻やわかさぎ”など川魚を担いで売りに来る業者もいた。

水道の水は非常に冷たく、父はビール

をひやして飲んでいた。後年、子供たちだけで生活するようになったが、水道水での洗濯は非常につらかった。冷たくて手を付けていけないので日向水を作っていた。今のようにプロパンガスはない時代、我が家では、台所の外に竈があり、鉄の釜に気圧が低いので重い木の蓋をし、薪でご飯を炊いていた。おかずは、炭で七輪に火を起し煮炊きしていた。

当時別荘で風呂のある家は少なく、別荘の人々はプール平の温泉、親湯、滝の湯、小斉の湯などを利用していた。風呂に入る前に子供たちはプールで泳ぐので、必然的に鍛えられることになる。プールの温度は親湯が体温くらい、プール平、滝の湯とちょっとずつ低くなる。夏といっても蓼科の気温は低いので、寒さを堪えてプールから高原ホテルの温泉まで走ったものである。現在の蓼科温泉の源泉はピラタスロープウエイ上り口の下方にあり温度は高いが、当時は源泉でも体温くらいの温度で低かった。どの温泉も湯滝をともなった“かけながしの源泉”と、適温に沸かした温泉の2槽があった。かわるがわる入ると、源泉が非常に冷たく感じたが、皮膚を鍛錬するので風邪を引かなくなると奨励された。大人は湯滝に肩を打たせ凝りをほぐしていた。

我々小学生の生活は午前中勉強、午後は体を鍛えるため、プールでの水泳をすることが多かった。私はその頃やせっぽちで体が小さく、学校では一番前、冬には必ず風邪を引いていた。虚弱児童に近かったから特に運動を奨励された。植物・昆虫採集をすることもあった。この頃の蓼科は花も昆虫も多かった。プール

平、今テニスコートがあるあたりは、原っぱでニッコウキスゲ、桔梗、月見草、アザミなどが一面に咲き乱れていた。温泉帰りにはよく桔梗の蕾をつぶして、その音を楽しんだ。蝶々も現在はいなくなった黄色い羽に赤い点がある蝶など多種の蝶がいたし、8月末ともなればトンボがいっぱい飛んでいた。たまには、緑山温泉(乙女滝に近い、今のパークホテルの上手にあった)、明治温泉、杜鵑峡などへのハイキング、滝の湯川での川遊びをすることもあった。山の天気は変わりやすく、行きは晴れていても、帰りには雨になることがあり、雨に濡れ、凍えた思い出は消えない。

昭和15年は、今は使わなくなったが皇紀(紀元)2600年にあたるとして、記念の白色ドーム型文化柱(我々は文化塔といていた)が滝の湯入り口の少し上の道端に建てられ、いまでも現存する。東京の「新聞の新聞社」が、蓼科の乾燥した気候に着目して当時の新聞、雑誌などの資料を保管したもので百年後に開けるとしている。いわばタイムカプセルである。私は戦後すぐこの中を見せてもらったことがある。

＝次号へ続く＝

蓼科区役員

本年の蓼科区長他をご紹介します。

区長 柴田 真人さん
副区長 桑野 眞さん
会計 寺村 純一さん
一年間宜しく申し上げます。

編集後記

昨年、諏訪大社の御柱のお祭りで、諏訪、蓼科地区が大いに盛り上がった年でした。今年は落ちついた年かと思いきや、地震、津波、原発事故で日本国中が大変な年になりました。それでも蓼科は被災地から遠く、比較的落ち着いた高原生活が送れそうです。

しかし、この一年、我々の周り、身近なところで色々な変化がありました。先ず第一に、蓼科会が長いこと午餐会、音楽会に使ってきたアートランドホテルが本年9月末で閉店となります。9月以降どうなるか、現在ホテルの買い手を捜している様ですが、まだ、未定です。次に滝の湯グランドホテルですが、経営が替わり、今春よりオリックスの傘下に入りました。親湯も爆発事故があり現在、一部を補修改装中です。人身事故は、なかったのが不幸中の幸いでした。しかし親湯は事故にも拘わらず、集客は順調で実績をあげているようです。また事業拡大の一環として諏訪湖畔にも新しくホテルを買収し、夏の需要期に向けて着々と準備をしています。

アートランドホテルの閉鎖は、我々、蓼科の住人にとって寂しい出来事ですが、反面親湯は、積極経営で実績をあげています。今年の午餐会は、親湯で行うことに決めましたが、ホテルの接客態度の良さによるところ大です。食事の内容についても期待できそうです。

古くからある蓼科高原の3つ代表的ホテルの名前が出ましたが、笹丸平にある比較的新しいホテル、‘たてしな薫風’について

も一言、触れておきます。かつての三菱銀行の保養施設を大幅改装し、しゃれた温泉付きホテルに仕上げ、我々の見る限りいつも賑わっています。‘親湯’、‘薫風’に共通することは経営努力をしていること、そしてその経営努力が素人眼にみてもわかることです。

日本の代表的保養地として、軽井沢と蓼科。軽井沢の賑わいは、空き別荘が出て直ぐに買い手、入居者が決まるそうです。それに比べて我々の周りになんとも廃屋が多いこと。

蓼科は山あり、川あり、湖ありで、自然のインフラでは、軽井沢に引けをとりません。それに軽井沢の湿った空気に比べて、高原のおいしい空気があります。

本会報掲載中の山中さんの‘蓼科高原昔ばなし’にあるように蓼科も旅館、ホテルそれに地域開発事業会社の経営努力で昔の繁栄、賑やかさを取り戻せないものでしょうか。(稲留 偉智記)

蓼科会のホームページ

蓼科会のホームページを開設。URL は以下の通りです。

<http://web.me.com/inatome5/tateshinakai>
会の活動、便利情報、地元のお店情報などを発信していきます。是非ともご覧下さい。

◎ 平成 23 年度会費納入のお願い
同封の郵便振替用紙で納入の程、よろしく
お願いいたします。
会費：2,000 円
納入先：郵便振替 00120-5-133236
加入者名：蓼科会
会計担当：板倉幸枝